

第5回東日本区大会区実行委員会議事録

2026年4月21日（火）午後8時

顧問	山下 真（十勝）
実行委員長	榎本 博（伊東）
事務局長	金子 正樹（伊東）
会計	中村 義春（十勝）
委員	渡辺 大輔（東京武蔵野多摩）

【ホスト委員会】

川上 直哉ホスト委員長・清水 弘一事務局長・竹内 聡

概要

- 本会議では、東日本区大会に向けた進捗確認として、主に登録促進、表彰・司会進行、リハーサル運営、予算見直し、晩餐会準備、今後の日程が議論された。
- 特に、登録漏れへの対応、司会者体制の再調整、リハーサル会場の変更、参加者数不足による収支悪化リスクが重要論点となった。

晩餐会（石巻グランドホテル）計画

- 現在定員・運営
 - 定員上限は350名で運営可能。動線・サービス面の問題なし。
 - カメラ配置や中継は不要と判断し、該当費用は予算から削除済み。
 - 万が一溢れた場合は同料金で追加1室を確保し、中継なし・立ち見対応で運用。
 - タイムテーブル調整（食事時間の確保）
 - ウェルカムドリンクは18:30開始を維持しつつ、滞在時間を30分→15分に短縮。
 - コンサートは19:00開始予定を前倒しして18:45開始（約25～30分）とする提案で収まりを確認済み（清水氏は当初難色だが、計算上は収まる想定）。
 - 終了も15分延長（20:45）し、食事時間を50分→80分へ延長。留学生は20:30で退出可とする運用を想定。
- 音響・運営体制
 - サウンドチェックはホテル常駐の業者（清水氏手配）が実施。実行委の現場関与は不要。
 - 晩餐会でのプロジェクター等の映像演出は行わない方針。次期大会PRは横断幕で対応。
 - 看板は大会会場のものを流用し、ホテルのバトンを借用して設営（ウェルカムドリンク中にセット）。
- 料理・予算
 - 舟盛りは取り止め。舟盛り分として想定した追加をテーブルに配分するか節約するかは実行委員会で判断。

前夜祭（会場・機材）

- 定員・会場構成
 - 定員上限は120名（最大130名まで調整）。受け取りはチューブ前を広めに確保。パーテーション等は会場備品を活用。
- 機材・表示
 - モニターは南北に各1枚。カメラ・Zoom連携で拡大表示可能。
 - 操作担当は三田氏と川上氏で対応。三田氏のiPad接続を前提に準備。
 - マイク・リハーサル
ワイヤレスマイク2本（スタンド用／手持ち）を使用想定。
 - 瑞穂氏のリハーサルは30分程度で足りる見込み。

バス等移動の方針

- ルートイン宿泊グループへの対応
 - ルートイン等のホテル経由の追加ルーティングは距離課金で増額・収拾困難のため実施しない。各自タクシー等での対応を原則とする。
 - ルートイン発着（8:50/9:00等）の便は削除。公式回答でも「バス利用しない」参加者が多い状況。
- ビックバンへの移動
 - 午前～正午で165名＋車提供枠（竹内・川上等）＋ユース最大9名 → 概算184名規模。
 - 配車案（想定）：大型45名×3=135名、マイクロ22名、ハイエース8名。スーツケース等の大型荷物は大型バスに集約し、マイクロ/ハイエースは人員優先搭載。
- ビックバン撤収～晩餐会移動
 - 17:30終了でも荷物載せ替え等で即時出発不可（17:40～45目安）。ホテル到着は18:15頃、着替等で18:45～19:00がタイト。
 - ハイエースは1往復ピストンで備品輸送。マイクロは人送迎後に戻り、片付け要員5～6名＋備品搬送に充当。
 - 片付け要員は仙台青葉城・石巻・盛岡等から10名以内を指名。ユース中心で現地に残し、ワイズ側スタッフはホテルへ先行移動の案が有力（濱塚氏の指揮で運用）。
 - 排出口は正面玄関右の搬入口を開放し、控室付近に集積して動線を確保。

会場関係

- ビックバンフロア配置
 - 1F：物産販売を1カ所追加。受付を中央監視室側へ移設。控室（憩いの部屋）の表記はパンフに掲載しない。
 - 更衣室：踊りの出演者向け男女更衣室を設定。
 - ユース・学生控室は企画に応じて再配分（図面は竹内氏が更新・共有）。
- 昼食会場・弁当
 - 3F北・南スペースを使って40～60名、上桜ホールで約20名を想定。ユース部屋の利用状況により配分最適化。
 - 弁当配布はメンバー確認のうえ指定の配布拠点で実施。弁当業者は確定済、納入時刻はこれから指示・調整。
 - 現状カウント：代議員会・メネット・ユース合計で190食。別途、演者分を加算見込み。
- プロジェクター・音響映像
 - 本大会側は渡邊氏が操作担当。機材は借用・持込で費用発生なし（山下氏の単焦点は無償提供、手土産レベルの謝意）。
 - 代議員会は広瀬先生経由の公共施設借用で使用料不要。竹内氏が設定・相性（音声・映像）事前テストを実施。
 - ホール内蔵設備は単焦点型が必要。火曜に使用に耐えうるかを仕様確認。それで手持ちのプロジェクターがだめで通常型の使用が必要なら仮設やぐら等を検討。

ローズガーデン関連（雄勝ローズガーデン）

- 定員は40名が上限（人気スポット＋日曜で補助あり）。さらなる増枠は慎重対応が必要だが現場ではなんとかかなるとの意向。

- 5月公民館の椅子並べ（3～4名で30分）等の人手不足に対し、ユースの集い参加者を無償ボランティアとして活用（弁当支給）を提案し、ユース代表と協議中。
- 朝の移動が発生するため、現場での柔軟調整を前提。

ユース関連

- 企画は並木氏・川上灯氏で詰め中（全体像は未確定）。初回で手探りのため過度な条件付与は避ける。
- 土曜は10:00にビッグバン集合を希望（昼の車両が逼迫のため）。後追い移動も可とし、遅れてもよい旨を明確化する方針。オープニング不参加でも可。
- 人数は現状少数（約10名見込み）。マイクロ（29席）で対応可能。片付け要員としてもユースの活用を想定。

予算・費用・会計

- 準備金と収益区分
 - 準備金50万円は資金繰り用で収益には算入しない。予備費52.7万円とは別管理。未使用が前提（万一使用時は返済、連帯保証人は山下氏）。
 - 収入は登録会費で賄う方針。助成金・広告収入は目標50万円。未確定要素が多く、余裕を持った運用。
- 事務局費・小物
 - 事務局費（54.89万円）に余裕あり。名札・袋・バッグ等の小物はこの枠で吸収（目安10万円）。
- プログラム費・出演関連
 - 伊藤牧師＋相方（東京発）の交通費・謝礼は合計5万円を目安（2名分、交通費込み）。必要に応じてプラスアルファを柔軟検討。中沢氏（運転・音響）は実費のみの申し出だが、可能なら謝金をつける方向で配慮。
- 機材費
 - 本大会・代議員会とも追加の技術者費用は発生しない想定。事前テスト・付属品の相性確認を徹底。
- のぼりの基台
 - 施設への結束は禁止・重しも不可のため、折りたたみポールスタンドを10台購入し東北センターへ送付。
- プログラム・広報・デザイン
 - プログラム（パンフ）
現行12ページ。協賛広告の集まり次第で16ページへ拡張可。
実行委員会・ホスト委員会メンバー名の掲載を検討。控室の掲載は見送り。
大会テーマ・国際協会表記など、チラシ準拠のデザインへ整理・強化。
ホームページも含め原案修正実施。
 - 第2部コンサートの表記
名称は「記念コンサート（一般公開）」が妥当。羽小躍りと「岸典子&白玉早紀」ライブを内包する構成で、保存会会長の了承を取得する。
 - 感謝状・映像
○ ミサワホームへの感謝状贈呈は「震災振り返り」（14:05、10分枠）の中で実施。3分の映像（賛美歌342番伴奏）を上映。データは渡邊氏へ送付し、スライドに組込み。

- 開会式の表記
 - 祈り等の個別役割名はパンフに記載しない方針（過去例に倣う）。
- 登録・名簿・来賓対応
 - 来賓・ボランティアの登録費負担一覧は、今週中に最終整理してホスト・区に配布（竹内氏）。
 - 上位来賓（西日本関係、田上氏、太田氏等）は調整中。一部通知未了分あり。
 - 免除対象の追加（伝道師×3=X3）を反映。
 - 司会者の入れ替え：山口真帆氏→川上恵氏。関連資料・サイト全体の表記を更新。ユース参加者の入替（帯広 YMCA・長瀬氏）も反映。
 - 献金先の方針（礼拝時）
礼拝時の献金は「福島 YMCA 設立」を目的とし、具体的な送付先は「福島 YMCA 設立準備委員会」とする折衷表現で合意。
 - 手続・表記
実行委員会方針として決定。代議員会／常任役員会の意思決定プロセスと整合。
 - パンプ（礼拝）に献金先を記載し、アピール文を作成・掲示。
 - バス乗車予定確認のスケジュール・締切
5/16 に一斉メールで最終確認を送付し、回答期限は 5/18（月曜想定、短期）とする。
確定後、配車・名簿を最終確定（渡邊氏）。5/15 の登録締切後の新規登録者には個別に案内。

対応準備

- @川上 5/16 にバス最終確認の一斉メール送信、回答期限を 5/18 に設定。
- @渡邊 バス配車・名簿を 5/18 以降に最終確定、荷物は大型バス優先で積載運用に反映。
- @渡邊 片付け要員候補リスト（仙台青葉城・石巻・盛岡中心、10 名以内）を清水へ送付。
- @清水 片付け要員を最終指名し当番

次回ホスト委員会 5 月 4 日 19:30
 次回区大会実行委員会 5 月 21 日 20:00